

チベット語訳『妙法蓮華註』「授記品」和訳

望月 海慧

1 はじめに

本稿は、身延山大学東洋文化研究所の法華経研究班による研究成果の一部であり、先行する「チベット語訳『妙法蓮華註』和訳」に続くものである。今回は第6章「授記品」の和訳を提示する⁽¹⁾。既出の和訳を提示すると次の通りである。

- ①「チベット語訳『妙法蓮華註』の序文の構成について」『身延山大学仏教学部紀要』13, 2013, pp. 1-22.
- ②「チベット語訳『妙法蓮華註』「五百弟子受記品」和訳」『身延論叢』19, 2014, pp. 35-58.
- ③「チベット語訳『妙法蓮華註』「授学無学人記品」和訳」『日蓮教学教団史の諸問題』山喜房佛書林, 2014, pp. 41-51.
- ④「チベット語訳『妙法蓮華註』「法師品」和訳」『法華文化研究』39, 2013, pp. 29-48.
- ⑤「チベット語訳『妙法蓮華註』「見宝塔品」和訳」『日蓮仏教研究』6, 2014, pp. 7-22.

最初のものはテキストの冒頭部分であり、チベット語訳は「見宝塔品」の途中で終わっている。また、第7章「化城喩品」については別稿を用意している。

2 『妙法蓮華註』「授記品」の構成

和訳を提示する前に、本章の全体の構成を提示しておく。本章も先行する章と同様に、「理由」「名称」「疑惑の除去」による章題の解説（前文）の後に、本文が解説される。

本章の内容はマハー・カーシャパ、スプーティ、マハー・カーティヤーヤナ、マハー・マウドガリヤーヤナの四大声聞に対する授記であり、注釈の構成もそれぞれに対する授記の内容に基づいて分類されている。経文の解説にタイトルを付すと、次のようになる。

- | | |
|----------------|---------------|
| [1] 四大声聞への授記 | [2] カーシャパへの授記 |
| [3] 国土 | [4] 衆会 |
| [5] 偈頌 | [6] 国土 |
| [7] 衆会 | [8] 寿量 |
| [9] 3声聞への授記の請願 | [10] 請願 |
| [11] 喩例 | [12] 三大声聞への授記 |

- | | |
|--------------------------|---------------|
| [13] 授記の特徴 | [14] 廻向 |
| [15] スプーティへの授記 | [16] 原因と結果 |
| [17] 希有な特徴 | [18] 衆会 |
| [19] 如来の変化と法を聞く衆会 | [20] 寿量 |
| [21] カティヤーヤナへの授記 | [22] 授記の根拠 |
| [23] 如来の国土の莊嚴 | [24] 国土の特徴と寿量 |
| [25] 請願のまとめ | [26] 授記を向けること |
| [27] 国土の特徴と福德の特徴 | [28] 自性と衆会 |
| [29] マウドガリヤーヤナへの授記 | [30] 恭敬と供養 |
| [31] 原因 | [32] 結果 |
| [33] 劫の名称と原因の名称と国土の飾りの特徴 | [34] 善と寿量と数 |
| [35] 授記の円満 | [36] 以下省略 |

まず、前文では、漢文は、他の章と同じように「来意」「差別」「釈名」の3項目から本章のタイトルを解説するのに対して、チベット語訳は「差別」の見出しを欠き2種とするものの、対応する解説は翻訳されている。これは、他の章では「釈名」が第2項にあるので、チベット語訳者が「来意」と「差別」を同一項として扱ったからであろう。

全体の構成は、四大声聞のそれぞれに対する授記が、それぞれの仏国土の莊嚴、そこに集まる衆会、その寿命などとともに配置されたものである。ただし、最後 [36] では、第34偈以降の注釈を省略して、翻訳は終了している。

3 チベット語訳テキストの和訳

これ以後は「授記品」で、それは何故に「授記」と名付けられたのかと、名称の解説との2種である⁽²⁾。

そのうち理由は、聖シャーリプトラは鋭根なので、法を聞くだけで理解できるので授記で、他の中根の者たちは意味を譬喩で説明されて説かれたもので理解することで授記する。また我慢をもつ者たちは飾りが並べられるので、すべての乗は1つで、大小がないので授記する⁽³⁾。

さらにまた、授記の法は3種で、自性があるための授記と、殊勝があるので結果があることによる授記と、大きな我そのものをもつ者に大きな教義が相応しく大きな原因に大きな結果が相応しいことによる授記で、3つである。自性により存在するものも授記に相応しく、授記に相応しくないことは、「無明に始まりはあるのか、ないのか」と言う質問に対する無記であったように⁽⁴⁾。特別な原因は、授記に相応しい⁽⁵⁾。大きな原因と大きな結果も、授記に相応しい。小さな原因と小さな結果は、授記に相応しくない⁽⁶⁾。善根が熟した者たちには速やかに授記し、

熟していない者たちには後で授記し、輪廻を捨てて結果を速やかに得ることを望む者たちに速やかに授記し、大悲により輪廻と結合した者たちは、緩やかに授記する⁽⁷⁾。また総じて授記するものと、それぞれを区別して授記するものである⁽⁸⁾。

名称の解説は、何れかの原因をなしてその結果を得ることで、そのそれぞれを示すので「授記」と言われる⁽⁹⁾。

[1] 経に、「それから世尊はこの偈を説かれてから」と言うものから「正法を受持するであろう」と言うまでには⁽¹⁰⁾、聖者である四大声聞が明らかに授記することを先の8偈で説いており、次の偈によりまとめが説かれ、それも最初に聖カーシャパに最初に授記し、他の聖者にその次に授記する。それらも、それぞれの根から、ある者は前に聖者の結果を得て、仏を後に成立させることもあり、例えば五百比丘に相違はないことから仏を前後に成就させ、一人一人に授記する如くで、大乘からも学と無学は相違があることから一時に仏を成就させるものと、ある者は先に聖位を得て、後にさらに後の者が仏を成就させるように。聖マハー・カーシャパは300万の仏にお仕えし、聖スプーティは3億ナユタの仏にお仕えし、聖カティヤーヤナは1億ナユタの仏にお仕えし、後に2ナユタ [の仏に] お仕えし、聖マハー・マウドガリヤーヤナが以前に8,000の仏にお仕えし、後に200ナユタ [の仏に] にお仕えしており、仏を授記することも、仏にお仕えすることが何度もあっても、広大な行を退けた者たちを導くために説かれており、それぞれ鋭根と鈍根から前後に授記するのである⁽¹¹⁾。

[2] 経に、「彼の身体は最後の時に「大莊嚴」という劫において」と言うものから「仏世尊で」と言うまでには⁽¹²⁾、結果を得ることによる授記で、真実の法を見る顕現により美しいので「光明」と名付けられる⁽¹³⁾。

[3] 経に、「その寿命は」と言うものから「花が撒かれる」と言うまでには⁽¹⁴⁾、国土が光明を得る功德を名付けたものと、劫を種々なる行で飾る莊嚴から名付けたもので、それらの国土莊嚴も、高貴な飾りを持ち、罪過と不善がなく、平等な四宝で大地が作られ、樹木は宝珠による莊嚴の滴で柵を広げ、種々なる花が敷き詰められる莊嚴をそなえている⁽¹⁵⁾。

[4] 経に、「そこで8,000の多くの菩薩が生じるであろう」と言うものから「法を護持することを精進するであろう」と言うまでには⁽¹⁶⁾、「すべての多くの衆会が妙法を護り、保持する」と言うことである⁽¹⁷⁾。

[5] 経に、「それから世尊は」と言うものから「この無上の知恵を完成させて」と言うまでには⁽¹⁸⁾、偈頌の最初の導入で、門と、明らかな授記と、まとめである⁽¹⁹⁾。

[6] 経に、「彼が最後の身体の時に世間の導師になる」と言うものから「平坦な美しい国で、見ればきれいであろう」と言うまでには⁽²⁰⁾、そこでも最初の半偈により自性が説かれ、その次の3偈により希有なものが説かれ、その次の3偈により衆会が説かれ、その次の半偈により寿命が説かれ、希有な特徴は不善がないなどの清浄な国土の8つの莊嚴である。「快い香りが

生じる⁽²¹⁾」とは、長行の中に出ておらず、戒の高貴な香りと合わせられる⁽²²⁾。

[7] 経に、「それは百億の菩薩」と言うものから「10万劫の知恵の数も」と言うまでには⁽²³⁾、衆会を示しており、菩薩と衆会たちの意味である⁽²⁴⁾。

[8] 経に、「彼は12中劫の間とどまる」と言うものから「光明はその虚空のこの莊嚴と同じである」と言うまでには⁽²⁵⁾、半偈により寿命が説かれ、後半でまとめられている⁽²⁶⁾。

[9] 経に、「それから長老の尊者マハー・マウドガリヤーヤナと」と言うものから「このように述べられた」と言うまでには⁽²⁷⁾、これにより聖なる3人の大声聞が授記をお願いし、世尊が実際に授記したものである。「身体を震えさせ、目を閉じずに仰ぎ見た」とは、1つを願う心である⁽²⁸⁾。

[10] 経に、「阿羅漢である偉大な勇者よ」と言うものから「勝者は我々に授記して下さい」と言うまでには⁽²⁹⁾、それらの言葉を賞讃して請願するものと、喩例から導かれた請願と、請願のまとめとの3つで、これは世尊における大きな功德の門から賞讃して請願するものである⁽³⁰⁾。

[11] 経に、「飢饉が生じた時のある者の」と言うものから「偉大なムニよ、終わるでしょう」と言うまでについて⁽³¹⁾、「飢饉が生じた時」とは、喩例から導いて請願され、声聞たちが大乘の法に飢えているので「飢饉」と言われる⁽³²⁾。世尊が予言を廻し、見て、大乘に入ることを弁才しなくてもその譬喩と同じである⁽³³⁾。「偉大な勇者よ、授記して下さい⁽³⁴⁾」とは、請願のまとめである⁽³⁵⁾。

[12] 経に、「それから世尊は」と言うものから「菩提を成就するであろう」と言うまでには⁽³⁶⁾、これ以後に三大声聞のそれぞれに授記されており、最初の長行により広げるものと、その次に偈によりまとめられている。長行にも2種あり、前者は原因が説かれ、その次に結果が説かれ、これは原因である⁽³⁷⁾。

[13] 経に、「そのようにさらなる所作をなして、最後の身体で」と言うものから「仏世尊」と言うまでには⁽³⁸⁾、結果が説かれ、授記の特徴は九つで、自性の9つの特徴で、自性による授記などである⁽³⁹⁾。

[14] 経に、「仏国土は『宝珠を生じるもの』と言われるであろう」と言うものから「百千の多くの声聞を導く」と言うまでには⁽⁴⁰⁾、如来の国土を種々なる莊嚴により飾られた場合の内外の2種の衆会と入ることが説かれている⁽⁴¹⁾。

[15] 経に、「それから世尊はその時に」と言うものから「明らかに知るべきである。私から聞きなさい」と言うまでには⁽⁴²⁾、これ以後の12偈を二つに分けて、最初の1偈は廻向が説かれ、その次の11偈で実際に説かれており、これは最初である⁽⁴³⁾。

[16] 経に、「私の声聞であるこの尊者スプーティは」と言うものから「金の樹木に似た大仙人」と言うまでには⁽⁴⁴⁾、これにより実際に廻向されており、原因と結果を合わせて説いたも

のと、7つの希有と、衆会と、寿命などが説かれ、これは最初である⁽⁴⁵⁾。

[17] 経に、「世間の者たちを利益し、悲心をもつ者になる」と言うものから「千万那由他有情を救済するように」と言うまでには⁽⁴⁶⁾、この希有な特徴が説かれている⁽⁴⁷⁾。

[18] 経に、「それから大きな力をもつ多くの菩薩」と言うものから「神通力は不可思議であろう」と言うまでには⁽⁴⁸⁾、衆会が説かれている。菩薩の衆会と声聞の衆会の適切なものが合わされる⁽⁴⁹⁾。

[19] 経に、「その最高の菩提が明らかに解説される時」と言うものから「彼に常に合掌するであろう」と言うまでには⁽⁵⁰⁾、如来による変化と法を聞く衆会たちが説かれている⁽⁵¹⁾。

[20] 経に、「その際に11中劫の間とどまる」と言うものから「両足の最高のものである」と言うまでには⁽⁵²⁾、寿命が説かれている⁽⁵³⁾。

[21] 経に、「それから世尊は比丘のすべてのサンガに告げられた」と言うものから「育てるようになる」と言うまでには⁽⁵⁴⁾、聖カティヤーヤナへの授記で、区別と章節が上と同じように合わせられる⁽⁵⁵⁾。

[22] 経に、「それらの仏世尊が涅槃してからも」と言うものから「天と人の師である仏世尊で」と言うまでには⁽⁵⁶⁾、その聖カティヤーヤナが過去時に多くの如来を実際に尊敬し、その涅槃の後にも宝珠の塔を作り、その塔に種々の供養をなして、多くの菩薩行をなして、ここで授記されており、その聖者自身が以前のサンガの僧坊を掃除してからすべての世において身体は金色をもつものになって、行道は美しい光をとまなうようになってから、この仏を成就することを授記している⁽⁵⁷⁾。

[23] 経に、「その仏国土は完全に清浄で」と言うものから「花をまき散らし」と言うまでには⁽⁵⁸⁾、如来の国土の種々なる莊嚴が説かれている⁽⁵⁹⁾。

[24] 経に、「地獄と」と言うものから「法の姿が存続するであろう」と言うまでには⁽⁶⁰⁾、その国土に三悪趣はいないことと、天と人が多いことと、内外の衆会が多く集まることと、身体の寿命が説かれている⁽⁶¹⁾。

[25] 経に、「それから世尊はその時に」と言うものから「他にはない言葉を言う」と言うまでには⁽⁶²⁾、これ以後を示すことで予言が向けられている⁽⁶³⁾。

[26] 経に、「私の声聞であるこの長老カティヤーヤナ」と言うものから「香と花で供養するであろう」と言うまでには⁽⁶⁴⁾、原因から導かれて授記をなす⁽⁶⁵⁾。

[27] 経に、「彼は最後の身体を得てから」と言うものから「天をとまなう世間の者たちが恭敬をなす」と言うまでには⁽⁶⁶⁾、授記の結果で、それも国土の特徴と、福德の特徴である⁽⁶⁷⁾。

[28] 経に、「光る最高の世尊になる」と言うものから「すべても生を捨て、生がないものである」と言うまでには⁽⁶⁸⁾、最初の2偈により自性が説かれ、後の偈により衆会が説かれている⁽⁶⁹⁾。

[29] 経に、「それからまた世尊は比丘のすべてのサンガに告げられた」と言うものから「請願するであろう」と言うまでには⁽⁷⁰⁾、聖マウドガリヤーヤナの授記で、在り方を分けたのは上と同じである。授記も過去時と後の時である。過去時も、仏が明らかにおられる時と、涅槃された時で、これは過去におられた時と合わせられる⁽⁷¹⁾。

[30] 経に、「それらの仏世尊が涅槃してからも」と言うものから「多くの相により供養をなす」と言うまでには⁽⁷²⁾、涅槃の次に恭敬をなしており、先に塔を積み上げ、その次に供養がなされている⁽⁷³⁾。

[31] 経に、「その彼岸のまた彼岸に」と言うものから「請願する」と言うまでには⁽⁷⁴⁾、後の原因が説かれている⁽⁷⁵⁾。

[32] 経に、「その次に最後の身体に」と言うものから「仏世尊で」と言うまでには⁽⁷⁶⁾、実際に結果が説かれている⁽⁷⁷⁾。

[33] 経に、「その仏国土は「心を楽しませる」と言われるであろう」と言うものから「花びらが撒かれ」と言うまでには⁽⁷⁸⁾、劫の名前と原因の名前と国土の特徴の飾りが説かれている⁽⁷⁹⁾。

[34] 経に、「国土は多くのもので満ちており」と言うものから「妙法の姿が存続するであろう」と言うまでには⁽⁸⁰⁾、多くの善が生じたことと、衆会と、寿命の量と数が説かれている⁽⁸¹⁾。

[35] 経に、「それから世尊はその時」と言うものから「伎楽により世間に利益をなすものを護る」と言うまでには⁽⁸²⁾、これにより円満に授記され、前者により原因が説かれ、後者により結果が説かれている。原因を説いたものにも、仏が世間におられる時と、世間を出た時に供養することである。「涅槃」とは、涅槃の後に供養することである⁽⁸³⁾。

[36] 「それからこのように最後の身体の時に」と言うものから⁽⁸⁴⁾、これ以後の解説の在り方は、上と同じように分けられる⁽⁸⁵⁾。

注

(1) 和訳箇所は、『丹珠爾（対勘本）：中華大藏經』第69巻、pp. 732-740に相応するが、批判的校訂版のテキストを身延山大学東洋文化研究所の『法華経研究叢書』の1書として出版する予定である。なお、付録「漢文テキスト「授記品」の科文」は研究協力者金炳坤氏によるものである。

(2) 786c25: 以三門分別一來意二差別三釋名。

チベット語訳は、「來意」と「釈名」の2種しかあげずに「差別」の項目をたてないものの、「さらにまた…」と「差別」の本文を翻訳している。

(3) 786c25-787a2: 來意有二 一鷲子上根聞法説而悟解佛即爲記四人中性聞説而方解故佛與記 二論云爲三種無煩惱人染慢説三平等初説乘平等故與授記上來佛説乘體有異便有無學執乘定異爲此記別顯乘平等故此品來如譬喻品已釋。

取意ではあるが、チベット語訳は『法華論』（T26 8c）からの引用箇所を翻訳している。

(4) 787a2-12: 差別者可記法有三 一體性是有 二勝有當果 三勝人勝理大因大果 體性有者可記無者不可記 如十四不可記理事本無故不可記問有體者可爲之記華嚴經說有始無始は無記佛不爲答有一比丘問十二因緣自作他作無明自起是無始義名爲自作更從他起是有始義名爲他作佛種種訶如人爲毒箭所中但應請醫拔之不須問其箭之所以故有體者可記無者不可記。

ただし、チベット語訳は「華嚴經說」(吉藏『法華義疏』T34 545c 参照)以下の翻訳を欠いている。

(5) 787a12-15: 勝有當果者可記無者不可記如善不善法成唯識云記謂善惡有殊勝自體及當果可記故名爲記無記不然故不可記。

ただし、チベット語訳は「成唯識論」(T31 12a)からの引用箇所を欠いている。

(6) 787a15-20: 勝人勝理大因大果者可記非者不可別記即記別經記弟子生死者勝人故記深密義者勝理故記當成佛者大因大果故其劣人劣理小因小果者名不可記今此乃是此第三中大因大果故爲之記非前二全後一少分。

ただし、チベット語訳は以下(「或記一種…又有四種」吉藏『法華義疏』T34 566ab 参照)の翻訳を欠いている。

787a20-25: 又此授記差別有多 或記一種謂十二分教中授記經 或說二種涅槃經說若有聞說隨順樂入速得成佛心生輕賤授以遲記若言佛道難得久受動苦然後乃成爲此人故授以速記。

(7) 787a25-28: 又善根熟者授以速記善根未熟授以遲記厭惡生死欲早證菩提智增上者授以速記樂處生死化度衆生悲增上者授以遲記。

(8) 787a28-787b3: 又有二種一總記二別記 智度論有三 一自知他不知爲利自故不爲利他 二他知自不知爲利他故 三自他俱知行二利故 又有四種如前已說 或說五種即此經中如來自記 或說六種並如前譬喻品初說。

ただし、チベット語訳は「智度論有三」以下の翻訳を欠いている。

(9) 787b3-7: 釋名者授音承秀反爲也與也付也記者決也別也驗也識也爲決了當果爲分別其當來果相與驗其因記識當果故名授記此品明彼事故名授記品。

(10) 前稿と同じように、『法華經』の引用箇所に対して、梵(ケルン)、藏(中村瑞隆)、漢(鳩摩羅什訳、『大正新脩大藏經』)の該当箇所をあげておく。

[9] Skt. 144.1-4; Tib. 144.1-3; Chin. 20b26-29.

(11) 787b8-787c5: 【1】經爾時世尊至無量大法(20b26-29)贊曰此品之中大文分二初爲四人現前記別後品末有二頌半標當授記爲第三周說法之由初復有二初爲大迦葉記後爲三大聲聞授記初文又二初長行後偈頌前長行有二初因記後果記此初也外遇良緣內修妙行觀見也如文可知然觀上下授記之人應爲四句一在小無勝劣在大即有之如五百弟子同是無學故小無勝劣前後成佛轉次授記故大有勝劣二在小有勝劣在大無勝劣如學無學人在小學與無學勝劣有殊同時成佛故在大無勝劣三小劣而大勝如阿難在學地得預流果在羅睺前成佛四小勝而大劣如羅睺は無學在阿難後成佛今此四人一不依根性論位次者在小無勝劣同無學故在大有勝劣迦葉觀三百萬億佛須菩提觀三百萬億那由他佛迦旃延觀八千億佛後二萬億佛大目犍連初觀八千諸佛後值二百萬億佛供養諸佛多小不同故知作佛亦有前後涅槃經說第四依菩薩供養八恒河沙佛今說小者退心之人非樂廣行

且就一地位遇佛多少而與授記非但爾所亦不相違今以此准涅槃經說須陀洹人八萬劫到乃至阿羅漢二萬劫到者以根性齊修行遲速相似者說不約根異行殊者說今以根行利鈍遲速故成四句不爾義旨極為相違。

ただし、チベット語訳は「涅槃經說第四依菩薩」以下の翻訳を欠いている。

(12) [2] Skt. 144.4-7; Tib. 144.4-6; Chin. 20b29-c2.

(13) 787c6-8: 【 2 】 經於最後身至佛世尊 (20b29-20c2) 贊曰果記有七此記自體觀豪光而生明慧聽法義而瑩金光況久修因金光自飾故名光明。

(14) [3] Skt. 144.7-145.1; Tib. 144.7-10; Chin. 20c3-7.

漢文はこのセクションを2つに分けて (20c2-4, 4-7) 注釈を行っているが、チベット語訳は引用文も1つにまとめている ([3] = 【 3 · 4 】)。

(15) 787c9-11: 【 3 】 經國名光德至二十小劫 (20c2-4) 贊曰此有三一國名以光為德故二劫名衆行莊嚴故三壽量。

787c12-17: 【 4 】 經國界嚴飾至周遍清淨 (20c4-7) 贊曰此中有六一土相有七一雜嚴二無惡三平正四寶地五樹六繩七華准前鷲子知因識果磔沙也小石也坑虛也塹也或作剛坎陷也小壘也堆聚土也阜陵也玉窟高平曰陵大陵曰阜土也肥也厚也長也。

(16) [4] Skt. 145.1-5; Tib. 145.1-4; Chin. 20c7-9.

(17) 787c18-21: 【 5 】 經其國菩薩至皆護佛法 (20c7-9) 贊曰此中有二一眷屬二無魔迦葉性行調順頭陀學戒不慢於人不壞善事故雖有魔皆護佛法。

(18) [5] Skt. 145.6-11; Tib. 145.5-9; Chin. 20c9-16.

漢文はこのセクションを2つに分けて (20c9-12, 13-16) 注釈を行っているが、チベット語訳は引用文も1つにまとめている ([5] = 【 6 · 7 】)。

(19) 787c22-24: 【 6 】 經爾時世尊至當得作佛 (20c9-12) 贊曰下十二頌半分三一頌半標告十頌半頌記半頌結之此初也。

787c25-27: 【 7 】 經而於來世至無上之慧 (20c13-16) 贊曰下頌記十頌半中分二初二頌半頌因記後八頌頌果記此初也。

(20) [6] Skt. 145.12-146.6; Tib. 145.10-146.6; Chin. 20c16-20.

(21) チベット語訳では第5偈第3パーダに相応するが、漢文は鳩摩羅什訳の原文 (「常出好香」20c19) を引かずに「其香一種長行所無」とする。

(22) 787c28-788a3: 【 8 】 經於最後身至無有丘坑 (20c16-20) 贊曰下果記中有四初半頌自體三頌土相三頌眷屬一頌半壽量此初二也土相有八一無惡二地三樹四繩五香六華七莊嚴八平正其香一種長行所無戒香因其故果多香萬行滿脩莊嚴亦足然與長行前後不同。

(23) [7] Skt. 146.7-10; Tib. 146.7-10; Chin. 20c21-24.

(24) 788a4-5: 【 9 】 經諸菩薩衆至不能數知 (20c21-24) 贊曰此眷屬也一頌半菩薩一頌半聲聞。

(25) [8] Skt. 146.11-12; Tib. 146.11-12; Chin. 20c25-27.

- (26) 788a6-7: 【10】 經其佛當壽至其事如是 (20c25-27) 贊曰初一頌半壽量後半頌結之。
- (27) [9] Skt. 146.13-147.2; Tib. 146.13-147.2; Chin. 20c28-29.
- (28) 788a8-12: 【11】 經爾時至目不暫捨 (20c28-29) 贊曰下第二段三人授記中初請後授請中初長行請儀軌後頌正請此初也悚者怖也懼也慄者戰也謹也敬也威也心求記果不敢專輒既法威嚴所以戰懼。
- (29) [10] Skt. 147.3-6; Tib. 147.3-6; Chin. 20c29-21a5.
漢文は偈の前にある散文 (20c29) から始まるが、チベット語訳は12偈から始まる。
- (30) 788a13-15: 【12】 經即共同聲至除熱得清涼 (20c29-21a5) 贊曰下七頌分三初二頌讚請次四頌喻請後一頌結請此初也初一頌讚後一頌請。
- (31) [11] Skt. 147.7-148.2; Tib. 147.7-148.2; Chin. 21a6-8.
漢文はこのセクションを3つに分けて (21a6-8, 9-13, 14-15) 注釈を行っているが、チベット語訳は1つにまとめている ([11] = [13・14・15])。
- (32) 788a16-22: 【13】 經如從飢國來至然後乃敢食 (21a6-8) 贊曰下喻請分二初一頌半喻後二頌半請此初也小乘匿乏大乘之法名為國佛之一乘名為王膳今者得聞名為忽遇疑已無分不敢脩行名未敢食佛與授記名得王教因授記後領納大乘修行大行欣當作佛名方敢食。
- (33) 788a23-27: 【14】 經我等亦如是至爾乃快安樂 (21a9-13) 贊曰此請也聞佛音聲說一乘理總言我作佛如見王食未蒙別受領脩行欣當佛果名未敢食蒙別授記如蒙王教即望脩行欣當作佛名之為食。
チベット語訳は『法華経』の經文 (21a9-13) を引かない。
- (34) Skt. 148.1-2; Tib. 148.1-2; Chin. 21a14-15.
- (35) 788a28-29: 【15】 經大雄猛世尊至如飢須教食 (21a14-15) 贊曰此結請也。
- (36) [12] Skt. 148.3-7; Tib. 148.3-6; Chin. 21a16-19.
- (37) 788a30-788b2: 【16】 經爾時世尊至具菩薩道 (21a16-19) 贊曰下別記三人初文有二長行及偈長行有二初因後果此因記也。
- (38) [13] Skt. 148.7-9; Tib. 148.6-8; Chin. 21a19-21.
- (39) 788b3-6: 【17】 經於最後身至世尊 (21a19-21) 贊曰下果記有九此自體記解法體相空但有假名故名名相或名與相二義俱空故名名相即名假相即受法二種相假。
- (40) [14] Skt. 148.10-149.3; Tib. 148.9-149.2; Chin. 21a21-28.
漢文はこのセクションを3つに分けて (21a21-24, 24-26, 26-28) 注釈を行っているが、チベット語訳は1つにまとめている ([14] = [18・19・20])。
- (41) 788b7-10: 【18】 經劫名有寶至周遍清淨 (21a21-24) 贊曰此中有三一劫空理為寶故二國三土相土相有五土平二地三樹四無惡五華淨丘坑者玉篇地高曰丘大塚曰丘。
788b11-12: 【19】 經其土人民至那由他 (21a24-26) 贊曰此中有二人居其處由內達理外感珍寶二眷屬。
788b13-14: 【20】 經佛壽至及聲聞衆 (21a26-28) 贊曰此有三一壽量二佛住空以解空故三利益。
- (42) [15] Skt. 149.4-5; Tib. 149.3-4; Chin. 21a29-b2.

- (43) 788b15-16: **[21]** 經爾時世尊至聽我所說 (21a29-b2) 贊曰下十二頌分二初一頌標告後十一頌正告此初也。
- (44) [16] Skt. 149.6-9; Tib. 149.5-9; Chin. 21b2-6.
- (45) 788b17-20: **[22]** 經我大弟子至猶如寶山 (21b2-6) 贊曰下正告分六初三頌果因合記一頌半土相三頌眷屬一頌佛化一頌聽衆一頌半壽量此初也有三一頌名一頌因一頌形。
- (46) [17] Skt. 149.9-10; Tib. 149.9-10; Chin. 21b6-8.
- (47) 788b21: **[23]** 經其佛國土至度無量衆 (21b6-8) 贊曰此土相也。
- (48) [18] Skt. 149.11-150.3; Tib. 149.11-150.3; Chin. 21b8-12.
- (49) 788b22-23: **[24]** 經其佛法中至有大威德 (21b8-12) 贊曰下三頌眷屬分二一頌半菩薩一頌半聲聞。
- (50) [19] Skt. 150.3-4; Tib. 150.3-4; Chin. 21b12-14.
- チベット語訳では前のセクションが第23偈第2パーダで終わり、このセクションが同偈の第1パーダで始まる。1偈を4パーダで翻訳することはチベット語訳も漢訳も同じであるが、語順にとらわれないサンスクリットの偈の前半の翻訳に対して、語順により文法関係を示す漢訳は単語の位置が異なっていることに起因している。漢文では、漢訳の語順に従い、この偈の途中でセクションを分けたために、チベット語訳では引用する偈の順番に逆転が生じている。
- (51) 788b24-25: **[25]** 經其佛說法至聽受佛語 (21b12-14) 贊曰初一頌佛化後一頌聽衆。
- (52) [20] Skt. 150.5-6; Tib. 150.5-6; Chin. 21b15-16.
- (53) 788b26: **[26]** 經其佛當壽至二十小劫 (21b14-16) 贊曰壽量也。
- (54) [21] Skt. 150.7-9; Tib. 150.7-9; Chin. 21b17-19.
- (55) 788b27-30: **[27]** 經爾時世尊至恭敬尊重 (21b17-19) 贊曰下迦旃延記長行分二准前初因記中有二初明初時後明後時初時有二初佛在後滅後此初也。
- (56) [22] Skt. 150.9-151.8; Tib. 151.1-7; Chin. 21b19-22.
- (57) 788c1-6: **[28]** 經諸佛滅後至供養塔廟 (21b19-22) 贊曰滅後有二合成已前造塔衆華已後供養玫瑰者火齊珠也抹香者若撒摩作抹細壤土作抹塗飾作灑今既別有塗香故應作沫玉篇棘者亡達亡結二反粥糜也碎香如糜故作棘碎香如細壤土應作沫。
- (58) [23] Skt. 151.8-9; Tib. 151.7-9; Chin. 21b22-28.
- 漢文はこのセクションを3つに分けて (21b22-24, 24-26, 26-28) 注釈を行っているが、チベット語訳は1つにまとめている ([23] = [29・30・31])。
- (59) 788c7-9: **[29]** 經過是已後至具菩薩道 (21b22-24) 贊曰此明後時供養於佛值良緣已方具菩薩所行之道內自修行。
- 788c10-15: **[30]** 經當得作佛至佛世尊 (21b24-26) 贊曰果記有六此自體也迦延過去曾掃僧地身常金色容儀閑雅今復目覩毫光耳聽法光故名閻浮金光廣如樞要度鉢代多王事瞻部那提是樹名在此洲無熱池岸側有經在此洲北岸近樹下有紫金光映弊日月。

788c16-19: 【31】 經其土平正至見者歡喜 (21b26-28) 贊曰此唯一土相有五一平正二地三樹四繩五華迦延端正見者歡喜由掃地因故外土相見者歡喜。

(60) [24] Skt. 151.9-12; Tib. 151.9-13; Chin. 21b28-c3.

(61) 788c20-21: 【32】 經無四惡道至二十小劫 (21b28-21c3) 贊曰此中有四一無惡趣二多人天三眷屬四壽量。

(62) [25] Skt. 152.1-2; Tib. 152.1-2; Chin. 21c3-6.

(63) 788c22-23: 【33】 經爾時世尊至真實無異 (21c3-6) 贊曰下七頌爲二一頌標告六頌正告此初也。

(64) [26] Skt. 152.3-5; Tib. 152.3-5; Chin. 21c6-8.

(65) 788c24-25: 【34】 經是迦旃延至供養舍利 (21c6-8) 贊曰下記有二初二頌因記後四頌果記此初也。

(66) [27] Skt. 152.6-8; Tib. 152.6-8; Chin. 21c9-11.

(67) 788c26-27: 【35】 經其最後身至之所供養 (21c9-11) 贊曰四頌果記爲四此中有二初一頌土相後一頌福田。

(68) [28] Skt. 152.8-11; Tib. 152.8-11; Chin. 21c11-14.

(69) 788c28-29: 【36】 經佛之光明至莊嚴其國 (21c11-14) 贊曰此中有二初一頌自體後一頌眷屬也。

(70) [29] Skt. 152.12-153.2; Tib. 152.12-153.2; Chin. 21c15-17.

(71) 789a1-3: 【37】 經爾時世尊至恭敬尊重 (21c15-17) 贊曰第三目連記中文段同前因記有二初初時後後時初時有二初現在後減後此現在也。

(72) [30] Skt. 153.2-6; Tib. 153.2-5; Chin. 21c17-20.

(73) 789a4-5: 【38】 經諸佛滅後至以用供養 (21c17-20) 贊曰此滅後有二初造塔後供養。

(74) [31] Skt. 153.6-7; Tib. 153.5-7; Chin. 21c20-21.

(75) 789a6: 【39】 經過是已後至亦復如是 (21c20-21) 贊曰此後時因。

(76) [32] Skt. 153.7-10; Tib. 153.7-9; Chin. 21c21-24.

(77) 789a7-12: 【40】 經當得作佛至世尊 (21c21-24) 贊曰下果記有七此自體多摩羅跋旃檀香者多是性義阿摩羅者無垢義聲勢合故遂略去阿字跋馳羅是賢義略但云跋旃檀香是唐音即是性無垢賢旃檀香佛由大目連煩惱輕微名性無垢仁德如香可熏名賢旃檀香佛。

(78) [33] Skt. 153.10-12; Tib. 153.9-11; Chin. 21c24-26.

(79) 789a13-15: 【41】 經劫名喜滿至見者歡喜 (21c24-26) 贊曰此中有三一劫名二國名三土相土相有四一平正二地三樹四珠華。

(80) [34] Skt. 153.12-154.3; Tib. 153.11-154.2; Chin. 21c26-28.

(81) 789a16-17: 【42】 經多諸天人至四十小劫 (21c26-28) 贊曰此中有三一多善趣二眷屬三壽量。

(82) [35] Skt. 154.4-12; Tib. 154.3-11; Chin. 21c28-22a7.

チベット語訳は第33偈の第3パーダ(ただし『法華經』のチベット語訳と多少異なる)で終わるが、漢文の対応箇所(21c28-22a4, 22a5-7)は異なっている([35] ⇨ [43・44])。

(83) 789a18-21: 【43】 經爾時世尊至奉持佛法 (21c28-22a4) 贊曰下頌記有十頌分二初五頌因記後五頌果記因記有二初二頌佛在後二頌減後此初也初一半遇良緣後半修妙行。

789a22-25: 【44】 經諸佛滅後至菩薩道已 (22a5-7) 贊曰此滅後行長表金利以金爲利梵云製多羅彼土更無別幡竿即於塔覆鉢柱頭懸幡今云利者譬訛也有所表故名爲長表。

(84) 【36】 Skt. 154.13; Tib. 154.12; Chin. 22a7-17.

チベット語訳は以下のセクションを省略するが、漢文はさらに4セクション (22a7-10, 10-14, 14-16, 16-17) にわたり注釈を行っている (【36】 ≠ 【45・46・47・48】)。

(85) 789a26-28: 【45】 經於意樂國至演說佛道 (22a7-10) 贊曰下五頌果記有六此中有四一國名二自體三佛壽四善趣。

789a29-30: 【46】 經聲聞無量至像法亦爾 (22a10-14) 贊曰此有二一眷屬二法住量。

789b1-3: 【47】 經我諸弟子至咸得成佛 (22a14-16) 贊曰下品第二段標當授記爲第三周說法之由中有二初一頌半標當記後一頌許當說此初也。

789b4-5: 【48】 經我及汝等至汝等善聽 (22a16-17) 贊曰此許說也警告其心令聽法故。

付録「漢文テキスト「授記品」の科文」

頁: 【経】	科文	名目 (偈頌数)	引用 (言及*)
786c25	0	三門分別	
786c25	0-1	来意	
	0-1-1	鷲子上根…故仏与記	
	0-1-2	論云…如譬喩品已釈	【法華論】、「譬喩品*」
787a2	0-2	差別	
787a4	0-2-1	体性是有	【華嚴經*】
787a12	0-2-2	勝有当果	【成唯識論】
787a15	0-2-3	勝人勝理大因大果	
787a20	0-2-A	授記差別有多	
	0-2-A-1	或記一種	
	0-2-A-2	或説二種	【涅槃經*】
787a25	0-2-B-1	速記	
	0-2-B-2	遅記	
787a28	0-2-C-1	総記	【大智度論*】
	0-2-C-2	別記	
787b1	0-2-D	有四種	
787b1	0-2-E	或説五種	

787b2	0-2-F	或説六種	「譬喩品*」
787b3	0-3	釈名	
787b8-787c5: 【1】	1	為四人現前記別	
	1-1	為大迦葉記	
	1-1-1	長行	
	1-1-1-1	因記	
	1-1-1-1-1	在小無勝劣在大即有之	「涅槃經*」
	1-1-1-1-2	在小有勝劣在大無勝劣	
	1-1-1-1-3	小劣而大勝	
	1-1-1-1-4	小勝而大劣	
787c6-8: 【2】	1-1-1-2	果記	
	1-1-1-2-1	記自体	
787c9-11: 【3】	1-1-1-2-2	国名	
	1-1-1-2-3	劫名	
	1-1-1-2-4	寿量	
787c12-17: 【4】	1-1-1-2-5	土相	
	1-1-1-2-5-1	雜巖	
	1-1-1-2-5-2	無惡	
	1-1-1-2-5-3	平正	
	1-1-1-2-5-4	宝地	
	1-1-1-2-5-5	樹	
	1-1-1-2-5-6	繩	
	1-1-1-2-5-7	華	
787c18-21: 【5】	1-1-1-2-6	眷属	
	1-1-1-2-7	無魔	
787c22-24: 【6】	1-1-2	偈頌 (12.5)	
	1-1-2-1	標告 (1.5)	
787c25-27: 【7】	1-1-2-2	頌記 (10.5)	
	1-1-2-2-1	頌因記 (2.5)	
787c28-788a3: 【8】	1-1-2-2-2	頌果記 (8)	

	1-1-2-2-2-1	自体 (0.5)	
	1-1-2-2-2-2	土相 (3)	
	1-1-2-2-2-2-1	無惡	
	1-1-2-2-2-2-2	地	
	1-1-2-2-2-2-3	樹	
	1-1-2-2-2-2-4	繩	
	1-1-2-2-2-2-5	香	
	1-1-2-2-2-2-6	華	
	1-1-2-2-2-2-7	莊嚴	
	1-1-2-2-2-2-8	平正	
788a4-5: 【9】	1-1-2-2-2-3	眷屬 (3)	
	1-1-2-2-2-3-1	菩薩 (1.5)	
	1-1-2-2-2-3-2	声聞 (1.5)	
788a6-7: 【10】	1-1-2-2-2-4	寿量 (1.5)	
	1-1-2-3	結 (0.5)	
788a8-12: 【11】	1-2	為三大声聞授記	
	1-2-1	請	
	1-2-1-1	初長行請儀軌	
788a13-15: 【12】	1-2-1-2	後頌正請 (7)	
	1-2-1-2-1	讚請 (2)	
	1-2-1-2-1-1	讚 (1)	
	1-2-1-2-1-2	請 (1)	
788a16-22: 【13】	1-2-1-2-2	喩請 (4)	
	1-2-1-2-2-1	喩 (1.5)	
788a23-27: 【14】	1-2-1-2-2-2	請 (2.5)	
788a28-29: 【15】	1-2-1-2-3	結請 (1)	
788a30-788b2: 【16】	1-2-2	授/別記三人	
	1-2-2-1	[須菩提記]	
	1-2-2-1-1	長行	
	1-2-2-1-1-1	因記	

788b3-6: 【17】	1-2-2-1-1-2	果記	
	1-2-2-1-1-2-1	自体記	
788b7-10: 【18】	1-2-2-1-1-2-2	劫	
	1-2-2-1-1-2-3	国	
	1-2-2-1-1-2-4	土相	
	1-2-2-1-1-2-4-1	土平	
	1-2-2-1-1-2-4-2	地	
	1-2-2-1-1-2-4-3	樹	
	1-2-2-1-1-2-4-4	無悪	
	1-2-2-1-1-2-4-5	華淨	
788b11-12: 【19】	1-2-2-1-1-2-5	居其処	
	1-2-2-1-1-2-6	眷属	
788b13-14: 【20】	1-2-2-1-1-2-7	寿量	
	1-2-2-1-1-2-8	仏住空	
	1-2-2-1-1-2-9	利益	
788b15-16: 【21】	1-2-2-1-2	偈 (12)	
	1-2-2-1-2-1	標告 (1)	
788b17-20: 【22】	1-2-2-1-2-2	正告 (11)	
	1-2-2-1-2-2-1	果因合記 (3)	
	1-2-2-1-2-2-1-1	名 (1)	
	1-2-2-1-2-2-1-2	因 (1)	
	1-2-2-1-2-2-1-3	形 (1)	
788b21: 【23】	1-2-2-1-2-2-2	土相 (15)	
788b22-23: 【24】	1-2-2-1-2-2-3	眷属 (3)	
	1-2-2-1-2-2-3-1	菩薩 (15)	
	1-2-2-1-2-2-3-2	声聞 (15)	
788b24-25: 【25】	1-2-2-1-2-2-4	仏化 (1)	
	1-2-2-1-2-2-5	聴衆 (1)	
788b26: 【26】	1-2-2-1-2-2-6	寿量 (15)	
788b27-30: 【27】	1-2-2-2	迦旃延記	

	1-2-2-2-1	長行	
	1-2-2-2-1-1	因記	
	1-2-2-2-1-1-1	初時	
	1-2-2-2-1-1-1-1	仏在	
788c1-6: 【28】	1-2-2-2-1-1-1-2	滅後	
	1-2-2-2-1-1-1-2-1	造塔	
	1-2-2-2-1-1-1-2-2	供養	
788c7-9: 【29】	1-2-2-2-1-1-2	後時	
788c10-15: 【30】	1-2-2-2-1-2	果記	
	1-2-2-2-1-2-1	自体	
788c16-19: 【31】	1-2-2-2-1-2-2	唯一土相	
	1-2-2-2-1-2-2-1	平正	
	1-2-2-2-1-2-2-2	地	
	1-2-2-2-1-2-2-3	樹	
	1-2-2-2-1-2-2-4	繩	
	1-2-2-2-1-2-2-5	華	
788c20-21: 【32】	1-2-2-2-1-2-3	無惡趣	
	1-2-2-2-1-2-4	多人天	
	1-2-2-2-1-2-5	眷属	
	1-2-2-2-1-2-6	寿量	
788c22-23: 【33】	1-2-2-2-2	偈頌（7）	
	1-2-2-2-2-1	標告（1）	
788c24-25: 【34】	1-2-2-2-2-2	正告（6）	
	1-2-2-2-2-2-1	因記（2）	
788c26-27: 【35】	1-2-2-2-2-2-2	果記（4）	
	1-2-2-2-2-2-2-1	土相（1）	
	1-2-2-2-2-2-2-2	福田（1）	
788c28-29: 【36】	1-2-2-2-2-2-2-3	自体（1）	
	1-2-2-2-2-2-2-4	眷属（1）	
789a1-3: 【37】	1-2-2-3	目連記	

	1-2-2-3-1	長行	
	1-2-2-3-1-1	因記	
	1-2-2-3-1-1-1	初時	
	1-2-2-3-1-1-1-1	現在	
789a4-5: [38]	1-2-2-3-1-1-1-2	滅後	
	1-2-2-3-1-1-1-2-1	造塔	
	1-2-2-3-1-1-1-2-2	供養	
789a6: [39]	1-2-2-3-1-1-2	後時	
789a7-12: [40]	1-2-2-3-1-2	果記	
	1-2-2-3-1-2-1	自体	
789a13-15: [41]	1-2-2-3-1-2-2	劫名	
	1-2-2-3-1-2-3	国名	
	1-2-2-3-1-2-4	土相	
	1-2-2-3-1-2-4-1	平正	
	1-2-2-3-1-2-4-2	地	
	1-2-2-3-1-2-4-3	樹	
	1-2-2-3-1-2-4-4	珠華	
789a16-17: [42]	1-2-2-3-1-2-5	多善趣	
	1-2-2-3-1-2-6	眷属	
	1-2-2-3-1-2-7	寿量	
789a18-21: [43]	1-2-2-3-2	偈頌 (10)	
	1-2-2-3-2-1	因記 (5)	
	1-2-2-3-2-1-1	仏在 (3)	
	1-2-2-3-2-1-1-1	遇良縁 (1.5)	
	1-2-2-3-2-1-1-2	修妙行 (1.5)	
789a22-25: [44]	1-2-2-3-2-1-2	滅後[行] (2)	
789a26-28: [45]	1-2-2-3-2-2	果記 (5)	
	1-2-2-3-2-2-1	国名	
	1-2-2-3-2-2-2	自体	
	1-2-2-3-2-2-3	仏寿	

	1-2-2-3-2-2-4	善趣	
789a29-30: [46]	1-2-2-3-2-2-5	眷属	
	1-2-2-3-2-2-6	法住量	
789b1-3: [47]	2	標当授記為第三周說法之由 (2.5)	
	2-1	標当記	
789b4-5: [48]	2-2	許当説	

【キーワード】

「妙法蓮華經玄贊」、【法華經】、「授記品」、基、慈恩大師